

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○6月29日～

先週もドル／円は動きがなく、1円程度の値幅の中におさまっています。

2024年7月の介入レートまで上昇してきたため162円を超えると介入が起こる可能性があります。問題は介入で円安を止めることができるかどうかです。

162円を超えるとテクニカル的に見て抵抗があまりないため、一気に165円あたりまで円安が進行するかもしれません。

米国の利下げ観測は消え、年内に利上げの可能性が出てきたことで、円安ドル高をどうやって止めるのか心配です。

米国の労働市場は堅調で、イランとの戦闘開始後はインフレが進んできているため日本よりも米国がハイピッチで利上げに動く可能性が出てきました。

金利上昇は株価にとってマイナスとなるため株価が高値圏で乱高下していることも気になります。

NYダウは史上最高値更新となっていますがナスダックは崩れかけているようにも見えます。

今の日経平均はNYダウよりもナスダックに連動しています。

これは日経平均採用銘柄に半導体関連などが多く含まれているためです。

日本株と円が同時に売られる動き(株安・円安)が今後あるかもしれません。

先週は米国とイランの60日間の停戦合意を好感して原油が大きく下落しました。

イランへの攻撃前(2月後半)と同程度の1バレル68ドルあたりまで下げました。

しかし、中東情勢がまた悪化しそうです。

イランがホルムズ海峡を通過する船舶へ攻撃したため報復として米軍がイランを攻撃したというニュースが入ってきました。

それに対してイランもクウェートとバーレーンの米軍基地を攻撃するなど反撃しています。

米国とイランはどちらも停戦違反だと主張していますが部分的な攻撃は続く可能性があります。

再び中東での緊張が高まれば、下がってきている原油価格が再び上昇し、マーケットにも影響が出る可能性があります。

停戦合意が崩壊となると4月以降大きく上昇している株価が暴落するかもしれないということで、為替相場だけでなく、原油価格や株の動きにも注意がいります。

米国は3日(4日の独立記念日の振替)休場となります。

3日(金)が祝日のため雇用統計は2日(木)に発表されます。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

ドル／円は 161 円台の高値圏で停滞した動きが続いています。

2024 年の夏に 161.95 円あたりで介入したレートまで上昇してきたことで、介入警戒感が高まっています。

162 円を超えれば介入の可能性があるため高値での買いは控えたいです。

161.5 円を割り込んでも 161 円では買いが入りやすく、160 円を割り込むまでは高値圏での推移が続くそうです。

狭い範囲での動きが続く可能性があるためデイトレードなどで数十銭程度の細かい売買をイメージしての取引がよさそうです。

介入しても本格的に円高に転換することは考えにくく、下がれば買いが入りやすい状況です。

ただし、介入があれば 3～5 円程度の急落は起こるかもしれないので、リスク管理は厳重に。

<気になるクロス円>

クロス円は動きがばらばらなので、チャートでトレンドを確認しながらの売買になります。

米国の利上げの可能性が出てきたことでドル＞ユーロの動きが今後鮮明になる可能性があります。すでにユーロ／ドルで見ると週足も月足も陰線となっています。

ユーロがドルに対して大きく下落する動きが出れば、ユーロ／円も下がってくるかもしれないので注意がいります。

オセアニア通貨(豪ドル、NZ ドル)は週足が陰線で下落しているため買いは様子見。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では 5 月鉱工業生産、4－6 月期日銀短観などがあります。

米国では 4 月ケース・シラー米住宅価格指数、6 月シカゴ購買部協会景気指数、6 月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、5 月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、6 月ADP雇用統計、ウォーシュ・FRB議長発言、6 月製造業PMI(改定値)、6 月ISM製造業景況指数、6 月雇用統計、前週分新規失業保険申請件数、5 月製造業新規受注などの発表があります。

欧州ではユーロ圏とドイツで 6 月消費者物価指数、6 月製造業・サービス業PMI(改定値)、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言などがあります。

ほかには、中国で 6 月製造業PMI、英国で 1－3 月期GDP(改定値)、カナダで 4 月GDPの発表などがあります。